

麻生多摩美の森だより

第4号 2004年3月31日発行 発行；麻生多摩美の森の会
発行責任者；勝田 政吾 編集者；木村 信夫

“04 健康の森フォーラム in 麻生” 開催レポート

2月7日午後、麻生市民館で開催され、120人の参加がありました。初めに植物誌調査会・吉田氏の講演、続いて各区からの活動報告がありました。懇親会は、阿部市長の挨拶でスタート、交流を深めました。各区健康の森と協賛団体の展示には工夫が凝らされ、会を盛り上げてくれました。今回は麻生多摩美の森の会が、各区健康の森および関係団体の多大な協力をいただいて、なんとか幹事役を果たすことができました。

〈講演要旨〉 雑木林と人とのかわり 植物誌調査会運営委員 吉田多美枝氏(まとめ：編集室)

人家に近い雑木林は「里山」と呼ばれ、農家にとって必要な“人工林”でした。生活に密着した林で、その恵みを人々は利用してきました。クヌギやコナラは炭の材料として欠かせなかったし、山桜は咲いたときよい目印となるので植えていたようです。エゴの木は、唐傘の骨になり、シデ類は盆栽や炭の材料にもなりました。

森の恵みとは何でしょうか。森に入ると心が癒されます。緑色が“安心の色”であり、

木が出しているフィトンチッドがあるからです。フィトンチッドは殺菌効果もあると言われています。森は空気清浄機と同じで酸素を供給し、クーラーの役もします。地中から吸い上げられた水分が、葉で気化して温度を下げるのです。夏に目黒の自然教育園で測定したら、周囲と比べ10度以上低く驚きました。また、園内に入ると森閑としており、これは森の防音効果によるものです。

里山の管理はどうしたらよいのでしょうか。里山では、大きくなったクヌギやコナラなどは切っていました。そうすると、地表の日当たりがよくな

り、株からの芽吹きも促進され20～30年でまた次の炭の材料となりました。一時的に殺風景になりますが、丈の低い植物がすぐに育ってきます。すべてを切ってしまうと、生き物の隠れ場所がなくなってしまうので、皆伐を順々に回していく方法がとられてきました。

木を切ってしまうことを疑問視する声がありますが、切らずにいと、孟宗竹やアズマネザサが繁茂し荒れてしまいます。竹は冬でも生長し、周りの木よりも大きくなり日陰を作るので、放置しておく

と竹林ばかりになってしまうのです。また、クズも木の上を覆い枯らしてしまうので、その退治も必要です。

春になると雑木林では、たくさんの草木が花をつけ、ギンランなども咲きます。これを持ち去る人がいますが、数年咲いても次第に咲かなくなります。ランに必要な共生菌が育たないため、やはりその場所で楽しんでほしいものです。

健康の森の活動は、川崎に残された貴重な里山を、楽しみながら保全活動をして次世代に残そうとしており、すばらしいことです。自然観察会などどんどん行い、その輪を広げて欲しいものです。



<各区・市民健康の森からの報告> まとめ：編集室・森 正昭

幸区・加瀬山の会は平成 15 年に会員 60 人でスタートした。晴れた日には、丹沢山と富士山、奥多摩、さらに奥秩父が見えるそうです。計画・施設・活動の 3 部会をつくり、月 1 回の活動をしているとのこと。健康の森の中には、動物公園や古墳、神社があるが、これら別組織とどんな連携ができるか、それと会員の増加策が課題だそうです。

高津区・市民健康の森では、昨年 5 月にホテル観察会を開催、源氏ホテルと平家ホテルが 150 匹程度発生したそうです。幼虫のためのカワニナ育成や親ホテル用にレタスの栽培など、育成法が分かったとのこと。散策路作り、収穫祭や小学校への竹細工指導、竹炭づくりなどの活動を行う中で会員が増えたと、気合の入った報告がありました。

中原区・市民健康の森では、森林の管理、池の清掃、野鳥観察、下草刈り、それに絡めたお楽しみ会を行ったそうです。湧水調査とともに、上下二つの池の水質調査を、専門家の指導で実施したとのこと。更に川の清掃活動に対し治水事務所より感謝状を受けたそうです。「井田山の森の恵みとは、“自然との触れ合い、人との触れ合い”です」というように、大変な作業を上手に楽しみに変えてしまうワザは素晴らしいと感じました。

宮前区・水沢森人の会では、「右手に鎌、左手にビール」の合言葉に従い、作業と交流を楽しみながら活動しているとのこと。ここは平瀬川と矢上川の水源地となっていて、そこを里山、ピオトープ、竹林、果樹林、草原、どんぐりの苗畑に分けているとのこと。子供たちに生き物の貴重さ、かけがえのない地球をここから伝えていきたい、そして、子供たちの声が聞こえる森にしたいという思いは、素晴らしい視点だと思いました。

多摩区・日向山うるわし会は、6 町会にまたがっており、見晴らしがよいところだそうです。会は

1 年半前にスタート、青空音楽会・天井のない展覧会を開催。東生田小、わくわくプラザの児童たち 250 人が参加、あわせて、焼き芋・豚汁・工作など行ったそうです。このときの作品が展示されていましたが、環境を上手に生かしたすばらしい企画だと感じました。

川崎区・海風の森は、会員が 38 人と少ないが、土手に菜の花や水仙を植えたり、大島桜の葉で桜餅を作ったりした。行政からトイレも作ってもらい助かっているそうです。公園地域なので会独自には活動ができず、公園事務所と相談しながら作業を進めているとのこと。夢は、海辺に風力発電機を設置し、ここの目玉にすることだそうです。

麻生区・多摩美の森は、雑木林と広場、篠竹の藪からなっている。広場は、植樹部分、畑、憩いの場に分けている。畑には、楽しみながら麦やソバ・イモ類を植付けし、その収穫物は収穫祭のときに利用している。小学生に麦茶づくりやソバ打ち指導を行った。「子供たちに森の恵みを分けたい」「子供たちの喜ぶ姿が大きなやりがいだ」。



各区からの報告と展示は、自然に触れる喜びと交流の楽しさに溢れ、それぞれの立地条件をうまく生かし、特色のある活動を展開していました。そして、子供たちへのメッセージ“自然を大切にしよう”という姿勢も共通していました。会員の拡大も共通した課題でしたが、活動の創意工夫の中にその答はあるように思いました。

「結果」を「成果」に

麻生区役所区政推進課 井川秀雄

私が現在の所属に異動し、“麻生区市民健康の森”の活動に参加させていただくようになって約3年が経過しました。いつでも気持ちよく受け入れてくださる森の会の皆様に、本当に感謝しています。

私の参加歴は、健康の森推進計画を受けて実際に管理運営に取り組み始めた時期と重なります。これまでの取り組みをふまえた今後の展望を、感じたままに書かせていただきます。

まず第1点目は、行政との話し合いの場を定期的に持ってはどうかということです。現在でも、公園事務所や環境局、区役所と上手に連携できているとは思いますが、それぞれの役割分担、現時点で考えていることなどを確認する意味でも、個別に打合せするのではなく、一つのテーブルに着く必要があるように思います。

第2点目は、これまでの取り組みという「結果」を、森づくりや組織運営に関するノウハウという「成果」として確認していくことが大切だと感じています。森づくりは行政としても先駆的な事例です。まちづくりにとっても大きな成果であることは疑いのない事実です。特に難しく考えることはないと思いますが、広報紙等を通じて発信することも、「成果」づくりへの第一歩であると思っています。

最後に、具体的な取り組みは、いろいろな人から意見を聞いて検討することだと思います。自分の発案が取り入れられる喜びは、さらに人の和を広げていきます。森づくりの主役は参加者の皆さんです。苗木を大切に育てて大樹に育てる。人育ても同じですね。参加者の“思い”という種を、どのように伸ばしていくかというあたりに、未来の「麻生多摩美の森」の姿を思い描いていけるように思っています。

藤棚作りの記 その1

大塚 伊四郎

1月26日(月)晴。大木伐採経験のない7人の素人集団が、早野霊園に連なる丘陵に藤棚用の檜の切り出しに行きました。

間伐材を使用とのことで、細い幹を想像していましたが、対象の木は間伐期を逃したのか相当太いものでした。伐採作業は早野聖地公園里山ボランティアのリーダー友部常松さんたちが分担してくださり、我々は彼らの指導のもと、ロープの引張り役と枝打ち、丸太の搬出を行いました。

伐採作業はきわめて危険と聞いていましたが、倒れてくる木を背中に受けしばし立ち上がれなかったり、切り倒した木の太枝を切った瞬間に動いた幹で足を払われ転倒したり、太い丸太と共に急坂を下ったところでへばって動けなくなったり、慣れない力仕事に筋肉が痙攣し一時片腕が使えなくなったりなど、言葉に表せない重労働でした。「次もまたお願いします」といわれたら、仮病を使って寝込むでしょう。

2月11日建国記念日、晴。5人の集団が再び早野聖地公園へ向かいました。過日、切り出した丸太を小道の脇に集めていましたが、これを大きなトラックに積みこむために集積所まで移動する作業でした。

またまた、友部さんたちのご協力をいただき、軽トラックに丸太を乗せて運び、長いものは片側を台車で支え“しずしず”と移動させました。

こうして、2時間あまりの貴重な体験は終了しました。当日、小生は不参加でした。仮病ではなかったことを申し添えます。

なお、この成果は、ぜひ“多摩美の森”でご覧になってください。(写真：友部さん<中央>の指導で柱用の深さ90cmの穴掘り作業をするメンバー。3月24日に上棟が行なわれた)



平成 16 年春の活動予定

副会長 平林 謙三

この冬は、篠竹刈り、早野聖地公園里山ボランティア・友部さんのご指導による藤棚用間伐材の切り出しと加工、昨年植樹祭で植え残した苗木の植樹実施、さらに炭焼きの成功など、会員の力を結集し大きな成果を収めました。

これからはいよいよ植物も虫も目を覚まして、活発に活動する春がやってきます。私たちも野外活動を一層楽しむ季節だと思っておりますので是非ご参加ください。作業時間は原則として、4・5月が10～12時、6月からが9～11時となります。なお定期総会は4/18です。

4月4日(日) 草刈、畑の手入れ、清掃など

4月17日(土) サトイモ畑の準備など

4月18日(日) 第2回通常総会

(麻生区役所・4回会議室 14～16時)

5月1日(土) サトイモの植付など

5月16日(日) 草刈、畑の手入れ、大麦収穫

6月6日(日) サツマイモの植付、清掃など

6月19日(土) 草刈、樹木苗木作り、畑の手入れ、清掃など

2004 里山フォーラム in 麻生 盛況!!

3月14日(日)午後、麻生市民館大会議室にて、「里地里山まちづくり 協働から未来へ」をテーマに、29団体の参加で開催され、150名の参加者でにぎわいました。各団体による展示、県自然環境保全センター専門研究員の中川重年氏の講演と里地里山応援隊によるパネルディスカッション、団体活動報告が行なわれ、当会からは間野洋会員が西生田小学校3年生の麦茶等の体験学習支援などについて報告しました。

中川氏講演では、森づくりの「出口」=管理で出てくる木材などの現代的な有効利用の大切さが提起されました。

'03 年植樹祭&収穫祭のビデオ

渡辺 昭治

私は、現役中にTVカメラマンとして自然と接する機会が多くありました。今では地域の“みどりの会”や“麻生多摩美の森の会”の会員として活動することに新たな喜びを感じています。

それで、1人でも多くの方々に活動の様子や風景などを伝えたいのと、記録に残したいという思いから、ビデオ撮影を始めました。撮影をしていると、カメラを通して参加の大人や子供たちの楽しそうな表情が伝わってきて、これがまたいいものです。



幸い、“ノンリニア”の編集ワザを習得しましたので、素材の取り込みから編集、完成まで1人でできています。完成したビデオを皆さんに試写していただき、「よかったよ」という感想を聞いて、一層の励みとなり嬉しかったです。

なお、希望者には貸出しをしますので、ご連絡ください。



広報編集室からのお知らせ

次号は、6月発行の予定です。皆さんからの投稿をお待ちしています。

連絡・投稿先

木村 信夫 044-954-7855

fwhp6921@mb.infoweb.ne.jp

森 正昭 044-951-1089

BYA15610@nifty.com